順位	氏名（議席）	発言の要旨
10	荻田 丈仁（28）	<p>1. 富士駅北口駅前公益施設でのキャリアカフェの取組について</p> <p>産業都市として栄えてきた富士市であるが、ものづくりをはじめとする多くの中小企業は、人口減少や働き方改革による人手不足、物価高騰により厳しい経営状況にある。慢性的な人手不足で事業縮小を余儀なくされたり、事業廃止・倒産にまで至る深刻な状況は、どの企業においても切実な問題として捉えている。</p> <p>行政での就労対策は積極的に進めなければいけないことであるが、若い人の人材育成、人材確保は地元企業にとっても重要なことであり、特に高校卒業後に富士市から流出する若い人は多く、少しでも市外への人材の流出を防ぐことや高等教育機関卒業後に富士市に戻って来てもらうための就労対策が必要となっている。そのためには、早い段階から地元企業を知ってもらう機会や企業と接する機会の創出が求められる。就労対策の1つとして、気軽にキャリアや仕事について相談したり、情報交換ができる場所やイベントを指すキャリアカフェがあるが、その形態や目的は主催するところにより様々である。富士市ではキャリア教育に力を入れているが、現在、吉原工業高校において、富士商工会議所が主催のキャリアカフェが開催され、生徒が富士地域の企業と交流し富士市での進路について考える機会になっていると同時に、吉原工業高校の人材育成にも大きく寄与している。このような事例を勘案しても、富士市の人材育成や人材確保のためには、気軽に学生や女性などに地元企業を知ってもらい就職を考える交流の場として、また就職相談や企業マッチング、リスキリング等の機会を与えるキャリアカフェの取組が有効であると考えます。</p> <p>集約・連携型の都市づくりを目指す本市において、富士駅周辺を重要な都市拠点として、現在、富士駅北口駅前広場も含め再開発事業と一体的な再整備を進めているが、本市の顔にすべく、交通結節点であり多くの人が集まる富士駅北口でのキャリアカフェの取組は、若い人たちのにぎわいの創出につながると思われる。富士駅北口駅前公益施設には、ものづくりSTEAMラボやブック・アンド・カフェの開設が予定されているが、産業界からも求められている官民連携でのキャリアカフェ事業に積極的に取り組むべきと思うので、以下質問をする。</p> <p>(1) 富士市の中小企業の慢性的な人手不足の状況や若い世代の就労状況をどのように捉えているのか。</p> <p>(2) 就労対策として特に進路を考える学生や若い人たち、女性に対してのキャリアカフェは有効であると思うがいかがか。また、富士駅北口駅前公益施設に設置しての取組は難しいと思うが、今後、施設内での地元企業のPRやキャリアカフェ事業に定期的に取り組むことへの具体的な協議を進めるべきと思うがいかがか。</p> <p>2. 富士市東部の富士山ビューポイントエリアの整備と活用について</p> <p>富士市は市内どこからでも富士山が見えると言われるほど富士山の眺望に恵まれた都市である。市内には富士山ビューポイントがたくさんある中で代表的な場所として岩本山公園、ふじのくに田子の浦みなと公園、富士西公園、富士総合運動公園、中央公園、富士市役所屋上等が挙げられる。それ以外にも魅力的なスポットとして大淵笹場、今宮の茶畑、龍巖淵、富士山夢の大橋等があるが、数ある富士山ビューポイントの中でも富士市東部土地改良区内の東部市民プラザ周辺は良好な田園風景に新幹線と富士山、また春には</p>

順位	氏名（議席）	発言の要旨
10	荻田 丈仁（28）	<p>レンゲ等、秋には稲刈り等の風景など四季折々の姿があり、年間を通じた富士山ビューポイントとしてメディア等でも取り上げられる全国的に有名なスポットである。</p> <p>大淵笹場や富士山夢の大橋においては多くの人を訪れることでの課題が生じ、活用する上での整備が求められた。東部土地改良区内の富士山ビューポイントは広域的で、農業者からも農道や市道への路上駐車が問題として上がっており、以前より、東部市民プラザ以外の整備を議会や地区が要望してきた経緯がある。新幹線と富士山の写真撮影場所は広域で東部市民プラザ駐車場の利用を勧めているが、相変わらず、農道や市道へ写真撮影のために路上駐車されている状況である。</p> <p>東部土地改良区内の富士山ビューポイントには、年間を通して多くの方が訪れているにもかかわらず現状は対応が十分とは言えない。第2次富士市観光基本計画の施策には富士山ビューポイントの活用がうたわれている以上、写真撮影に来る人のマナー向上や農業者にも理解してもらえるような整備対応を進めるべきである。富士市東部の誇るべき良好な田園風景や自然が広がる東部土地改良区内の富士山と新幹線の富士山ビューポイントエリアの整備と活用について改めて、以下のことを伺う。</p> <p>(1) 新幹線が通過する良好な田園風景が広がる東部土地改良区内の富士山ビューポイントの現状をどのように捉えているのか。</p> <p>(2) 市は東部市民プラザ内の駐車場の利用をお願いしているが、市道田中新田中里線沿いの路上駐車が多いため、新たな駐車場整備や写真撮影者のマナー啓発の看板等の整備、浮島沼つり場公園付近も富士山がきれいに見える場所であるため、公園利用者の駐車場を拡張することなどを求めるのがいかがか。</p> <p>(3) 富士市東部地域の富士山ビューポイントの観光活用についての展望を伺う。</p>

順位	氏名（議席）	発言の要旨
1 1	佐藤 菊乃（5）	<p>1. 「富士市へ戻り就職するとこんなメリットが！」と若者と保護者へ周知するための手法について</p> <p>本市においては、地元の高校卒業後の進路を市外に求める傾向にあり、18歳の実質人口は流出超過にある。また、市外の各種高等教育機関の卒業後、多くの若者は、生まれ故郷の本市に戻り就職するのではなく、主に首都圏にとどまる傾向にある。</p> <p>また、日本学生支援機構の令和4年度学生生活調査によると、何らかの奨学金制度を利用し大学に進学する学生は55%、短大では61.5%との結果が出ている。</p> <p>そこで本市では平成30年から人材アシストU-30と題し、若者が富士市へ戻り就職することを目的に、奨学金返還支援制度を開始した。昨年度には本制度の改正を行い、ほぼ全ての奨学金が本制度の対象となるよう拡充し、支援制度を設けている市内中小企業に対し、利用対象者の幅を広げている。</p> <p>本制度は、企業が支給した奨学金返還の手当の9割を富士市が支援していることから、企業にとっても人材確保に効果があり、企業側の金銭的な負担も少ないため、導入する企業も右肩上がりが増えてきている。</p> <p>そこで以下伺う。</p> <p>(1) 本制度について、市内企業に対し、どのように周知しているか。</p> <p>(2) 高校を卒業したこどもたち及びその保護者、高等教育機関への周知活動はどのように行っているか。</p> <p>2. 放課後等デイサービスをセルフプランで利用することについて</p> <p>障害を持つ小学生から高校生までが放課後や長期休暇に利用できる場所の1つに、放課後等デイサービスがある。</p> <p>利用するには利用計画を立て、利用給付の決定後、利用状況の報告、継続的なモニタリングが行われる。</p> <p>この利用計画については、保護者が有資格者、専門的職員のいる相談支援事業所と作成するものと、自ら作成するいわゆるセルフプランがある。</p> <p>本来であれば、放課後等デイサービスの利用については、アセスメントをしっかりとること、個々に合った療育を受けられるよう適切なプランの作成と実施の確認、モニタリングが行われるが、セルフプランの場合はモニタリングが必須とはなっていない。</p> <p>そこで以下伺う。</p> <p>(1) 放課後等デイサービスにおけるセルフプランの利用状況はいかがか。</p> <p>(2) 利用計画のチェック、モニタリング、学校との連携は重要な支援の1つだと考えるが、この点において、特に不登校にある児童生徒の現状の課題は何か。</p> <p>(3) 障害を持つ児童が、放課後等デイサービスではなく、通学する地域の小学校の放課後児童クラブを利用することは可能か。</p>

順位	氏名（議席）	発言の要旨
12	下田 良秀（17）	<p>1. 富士市立中央病院ががんゲノム医療連携病院を目指すことについて</p> <p>がんゲノム医療とは、がん患者のがん組織や血液から遺伝子検査を行い、患者ごとの遺伝子異常（変異）を調べ、その情報に基づいた最適な治療（個別化治療＝プレジジョン・メディシン）を行う医療である。厚生労働省が指定するがんゲノム医療中核拠点病院（以下、「拠点病院」という。）を中心として行われており、がんゲノム医療連携病院（以下、「連携病院」という。）はがんゲノム医療を拠点病院と連携し、地域の患者にも専門的な遺伝子解析と医療の窓口・受診機会を広げる役割を持つ病院である。具体的にはがんゲノム検査の説明や同意取得、検査の前処理、基幹病院への検査依頼などを行っており、厚生労働省が2018年から拠点病院として指定・認定を進めている。</p> <p>がんゲノム医療が必要とされる背景として個別化治療の社会的ニーズの高まりがある。同じがんでも、患者ごとに遺伝子変異や特性が異なるため、画一的な治療では十分な効果が得られない場合が多くなっている。ゲノム解析によってその人に合った治療薬や方法を選択することができる時代になったため、こうした高度な医療へのアクセスが求められている。</p> <p>がんゲノム医療を集約して行う拠点病院は全国数十か所に限られており、地域格差や、患者の負担軽減（遠方への通院回避）などのため、連携病院が窓口となり、拠点病院との橋渡しを行い、患者が質の高いゲノム医療にアクセスできるようにしている。またゲノム検査は専門的説明や倫理的配慮（インフォームド・コンセント）、遺伝カウンセリングを要するため、地域の医療機関でもこれらが適切に実施できる体制を整える必要がある。</p> <p>静岡県においては、県立静岡がんセンターが拠点病院とされており、連携病院は静岡県西部に6施設、中部に4施設あるが東部には1つもない現状がある。富士市民もがんゲノム医療を広く受けられるよう富士市立中央病院も連携病院になる必要があると考える。市民の健康と命を守るため富士市立中央病院も連携病院を目指すべきと考えるが市の見解を伺う。</p> <p>2. 富士市立中央病院における院内開業医師制度の検討について</p> <p>我が国において自治体の運営する公立病院は、その役割及び社会環境など様々な要因から厳しい経営状況に立たされている。地域医療の最後のとりでとして利益追求よりも公共的使命が優先されており、その結果、どうしても赤字が生じやすい構造になっている現状がある。例えば救急・高度医療・災害拠点としての役割や収益性の維持が難しい診療科を地域医療確保のため継続的に運営しており、赤字につながるケースが多いと言われている。</p> <p>そのような課題に対する解決策として行われている事例の一つに院内開業医師制度がある。これは代表的な事例として芦屋市立病院において導入されている制度で、病院の内部で独立した診療所やクリニックを開業する医師が存在する仕組みとなっている。病院内に独立した経営体として診療所を構えることができ、医師が経営者となる形態であり、専門性の高い診療科や高度な医療サービスを提供したり、外来診療の効率化を目指したりすることが可能である。他のメリットとしては医師が開業する際の初期コストが抑えられ、自分の診療スタイル・経営方針を追求しやすい等がある。病院としては採算が厳しい科についても多様な診療科を維持でき、専門性を持つ医師を集めることができる。また、患者に対しては診療科の選択肢の維持・追加ができるなどがある。課題としては、医師会との調整や、医師との診療の質の一貫性確保など病院の方針との調整が必要であり、収益配分や施設使用料の設</p>

順位	氏名（議席）	発言の要旨
12	下田 良秀（17）	<p>定、情報共有体制など運用の工夫が求められることとされている。</p> <p>本市においても、富士市立中央病院の経営は厳しい状況が続いており、様々な経営改善がなされている中で、建て替えを機に院内開業医師制度の導入の検討をしてはどうかと考え、以下質問する。</p> <p>(1) 診療科ごとの採算性と経営改善の対策について伺う。</p> <p>(2) 院内開業制度の導入についていかがお考えか伺う。</p> <p>3. 小中学校におけるバリアフリートイレの拡充について</p> <p>我が国では、障害者差別解消法や建築基準法等において施設のバリアフリー化を求めている。学校は公共施設の代表であり、誰もが安心して利用できる環境整備が法的な責務となっている。また、多様性尊重社会の進展に伴い、性別や身体的特徴、性自認（ジェンダー）など、全ての違いを受け入れる風潮が強まっている。</p> <p>学校教育の現場でも様々な変化があり、インクルーシブ教育の推進によって、従来以上に多様な児童生徒を同じ空間で受け入れる必要性が高まっている。さらに特別支援学校だけでなく、普通学校にも障害のある子、LGBT当事者、その他多様な背景の子どもたちのため、小中学校におけるバリアフリートイレ設置の必要性が高まっている。</p> <p>バリアフリートイレについて障害を持つ子どもの観点で見ると、身体的・発達障害等への配慮として、車椅子や歩行補助具を使う生徒だけでなく、介助を要する生徒、感覚過敏や発達障害の子も、安心して個人のペースで使えるトイレが必要だとされている。通常のトイレでは苦勞する、危険があるなどの相談は現場で実際に多いと伺っている。また心の安心確保として、みんなと同じ場所を使えない、特別扱いされている等と感ずることで、学校生活の満足度や自己肯定感が低下するというデータもあり、バリアフリートイレがあることで、自立心や社会参加意識の向上につながるとされている。</p> <p>また、性の多様性の観点から、LGBT（特にトランスジェンダー）やノンバイナリーの子どものは、男子・女子トイレしかないという状況で悩みや不安、疎外感を感じやすいと言われている。性自認にそぐわないトイレの利用を強いられることは、心理的苦痛や登校拒否の原因になることも報告されている。そんな中でバリアフリートイレは、性別を問わず誰でも使える、個室でプライバシーが保てるという特性があり、LGBTに限らず多様な性に関する不安を減らす役割を持っている。女子でも男子でもない、どちらのトイレも使いたくないという選択肢に対応することで、安心して学校生活を送れる環境づくりにつながる。これはLGBTだけではなく、例えば不登校やその他多様な事情を持つ子どもにも有効であると考え。さらに、多様性を尊重する社会の実践を子供たちに身近に示す教育的効果も大きく、インクルーシブ教育や人権教育の出発点としても重要だと考える。そこで、本市においても小中学校におけるバリアフリートイレの拡充が必要だと考え、以下質問する。</p> <p>(1) 富士市の小中学校におけるバリアフリートイレの設置状況について伺う。</p> <p>(2) バリアフリートイレの設置がない学校及びバリアフリートイレの校舎への設置がない学校への今後の設置予定について伺う。</p>

順位	氏名（議席）	発言の要旨
13	小池 智明（26）	<p>1. 人手不足、公務員離れ、働き方改革等が進む中での建築系技術職員の確保・育成、業務推進体制の在り方について</p> <p>私は、令和4年6月定例会で、公共施設の長寿命化等を進める上での建築系技術職員の確保・育成等についてをテーマに一般質問をした。</p> <p>そこでは、今後公共施設のリニューアル・長寿命化物件が増加していく中で、資産経営課が事務局となった公共施設マネジメント（FM）進行管理体制の確立や、建築系技術職員の採用、研修、育成、配置等について、当局の見解を確認するとともに、幾つかの提案を行った。</p> <p>その後、3年が経過し、新規人材の確保がなかなか進まない中、令和6年度末に建築系技術職員が一举に8名退職したとの報を聞き、改めて大きな課題であると懸念する。</p> <p>建設分野全体で直面する深刻な人手不足、公務員離れ、働き方改革等が進み、人材や時間は限られる中で、建築系技術職員を確保・育成し、市としての技術レベルを維持・向上させ、継承していく必要があると思い、以下質問する。</p> <p>(1) 技術職員の定数、配置、年齢構成、退職の状況について</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 職種別職員の定数と配置状況はいかがか。 ② 職種別職員の年齢構成はいかがか。 ③ 退職者数及び退職の理由はどのように把握しているか。 ④ 近年の募集人数と採用人数、採用者確保に係る取組はいかがか。 <p>(2) 今後の建築系技術職員の確保・育成、業務推進の在り方について</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 職員採用に向け、どのように取り組んでいくか。 <ol style="list-style-type: none"> ア 新卒採用について イ 経験者採用について ② 極力残業をしない中で、営繕業務における若手建築系技術職員育成に関し、以下の取組をどのように考えるか。 <ol style="list-style-type: none"> ア 基本的な実務研修（基礎的な建築全般）について イ 民間の設計事務所への外部委託について ウ 本市における新病院建設事業や富士駅北口駅前広場整備事業等の大規模プロジェクトを活用した育成について エ 周辺自治体との人事、技術交流について ③ 効率的・効果的に業務を進めるための人員配置や体制の在り方について、どのように考えるか。 <ol style="list-style-type: none"> ア 公共施設を所管等する各課（施設保全課、市街地整備課、新病院建設準備室、資産経営課等）への計画的な配置について イ 富士宮市、沼津市等との広域連携について ④ 上記の質問を踏まえ、今後、建築系技術職員をどのように確保・育成し、市としての技術レベルを維持・向上させ、継承していくかについて、短・中・長期的な取組を検討、整理、取りまとめた（仮称）建築関連人材育成・業務推進計画を策定し、それに基づき業務等を進めていく考えはいかがか。

順位	氏名（議席）	発言の要旨
14	藤田 哲哉（19）	<p>1. 旧吉原林間学園跡地の利用及び近隣の排水対策について</p> <p>旧吉原林間学園（以下、「学園」という。）跡地利用に関する近隣排水対策につきましては、令和2年度及び令和4年度に地元片倉町内会にて、市の方針について担当より説明会が開催されました。最終的には、民間活力の活用により事業期間の短縮、調整池築造費の圧縮が期待できるとし、必要調整容量の確保を条件に、民間事業者に学園跡地を売却し、土地を購入した民間事業者が、調整池を整備し残地を活用するという方針が示されました。</p> <p>しかしながら、その後3年が経過した現在も、民間事業者の参入に関する具体的な進捗状況やサウンディング調査の結果についての説明がないまま、状況は停滞しています。その間、簡易的な排水対策は行われたものの、根本的な解決には至っておらず、豪雨時の浸水被害は依然として解消されていません。</p> <p>そこで、以下伺います。</p> <p>(1) これまでのサウンディング調査の結果や民間事業者との交渉状況について、地元で説明できる具体的な進捗状況を伺います。</p> <p>(2) 住民の安全を守るため、市が主体となって学園跡地を調整池として整備し、併せて近隣の排水対策も一体的に行うという方針に転換するお考えはあるのか伺います。</p>